

河床掘削、工事再開OK

宇治市 塔の島地区改修

宇治橋下流から着手へ 今月末

土のう 国が再発防止策を発表

宇治川の「塔の島地区改修事業」に伴う河床掘削工事が、今年2月に発生した仮設締切堤の土のう流失事故を受けて中断している問題で、宇治市は17日、国交省近畿地方整備局淀川河川事務所の新再発防止策を了承し、工事再開を認めることを市議会の建設水道常任委員会（中路初音委員長）で明らかにした。同事務所の報告等によると、地元説明を経て、宇治橋下流の右岸側の一部で今月下旬から来年3月末にかけて河床掘削工事を予定。流出事故で行程が大幅に遅れているが、同事務所では「15年度完成」の目標を変更することはないという。

塔の島地区改修事業は天ヶ瀬ダム放流能力を毎秒900トから1500トに拡大することに伴い実施。河床掘削のほか、導水管や締切堤の撤去などを予定している。

今年1月に事業着手したが、2月末に土のう流出事故が発生。7月になって同事務所は▽土

堤部に必要な高さがなく、仮締切の構造として不完全▽ピラミッド形式でなく直積しての土のう積み上げ…など詳細設計、工事発注、工事施工、工事監督の各段階で人為的ミスが重なったことを原因に列挙。8月の建水委で川端修副市長は「我々が『うん』と言うまで工事は再開さ

せない。その判断基準を作りたい」としていた。同事務所は、この日までに市に土堤部の高さと同じにし、土堤部の法面勾配も緩やかにするほか、宇治川に接する場所には耐久性形状安定性に優れた耐候性大型土のうを使用する。これまでの「任意仮設から発注者が施工方法や品

質、出来形などを確認する「指定仮設」に変更。万が一に備えて、土と土堤部の間にはブルーシートを設置して浸水を遮断する各種の再発防止策を取ることを報告した。市では各過程で生じた問題点への対応策が実施されるため、河道掘削を行うために必要な仮設構造物としての安

全性は確保され、再発は防止できると評価した。

工事再開にあたっては同事務所が、きょう以降に地元説明に入ることにしており、了解が得られれば昨年度に工事予定だった宇治橋下流の右岸側の一部について掘削を行う予定。工期は今月下旬から来年3月末までを予定している。

既に工期が1年以上遅れているが、大関理事は「15年度の工事完了を変更することはなく、工事行程は再調整中と国から聞いている」と説明した。

天ダム再開発「事業中止を」
宇治・防災を
考える市民の会

宇治防災を考える市民の会（志岐常正代表）は17日、「天ヶ瀬ダム再開発事業に関する国への意見」について「問題点」と「市民説明会開催」と題した山田啓二府知事宛ての申し入れを行った。

天ダム再開発事業で国から意見照会があった点を踏まえ「変更容認ではなく事業中止の意見を上げられるように強く申し入れる」と要請。11月議会に報告議決をする前に市民への説明会開催を求めた。また、土のう流出事故についての見解なども求めた。